

科目区分：教育の基礎的理解に関する科目等

授業科目名：生徒指導・進路指導論

タイトル：生徒指導・進路指導論

執筆者：梅田崇広（教育学部）

1. 授業の基本情報

本授業は、前期に教育学部の中等教育コース・特別支援教育コース（主として中等免許を取得予定の者）の学生、後期に理学部・工学部・農学部の学生に対して行われた。授業の実施形態は、対面形式で実施した。受講者数は前期は 43 名、後期は 97 名（理学部 75 名、工学部 7 名、農学部 15 名）であった。

本授業の目標は、次の 3 点とした。

- ①生徒指導の定義と役割、進め方について説明することができる。
- ②学校におけるいじめや不登校など問題行動への対応について説明することができる。
- ③自己実現につながる進路指導のあり方について、キャリア教育の観点から説明できる。

第 1 回～第 10 回まで主に生徒指導に関する基礎的知識・理論について学習し、知識を踏まえたうえで実践的検討を行い、第 11 回～第 14 回まで主に進路指導・キャリア教育

に関する基礎的知識を学び、実際にキャリア教育に関する実践プログラムを作成する構成となっている。第 15 回目は本授業のまとめとして、生徒指導・進路指導・キャリア教育の要点について解説をした。授業シラバスは、表 1 に示すとおりである。

表 1：「生徒指導・進路指導論」シラバス

第 1 回	オリエンテーション：成長を促す指導に向けて
第 2 回	生徒指導の意義・方法原理・位置づけ
第 3 回	さまざまな教育活動ですすめる生徒指導
第 4 回	生徒理解の意義と方法
第 5 回	教育相談の意義と方法
第 6 回	生徒指導体制の構築と家庭・地域・専門機関等との連携
第 7 回	生徒指導に関する法制度

第 8 回	中学校・高等学校における暴力・非行をめぐる生徒指導
第 9 回	中学校・高等学校における不登校をめぐる生徒指導
第 10 回	中学校・高等学校におけるいじめ・インターネット利用をめぐる生徒指導
第 11 回	進路指導・キャリア教育の意義・方法原理・位置づけ
第 12 回	計画的・組織的にすすめる進路指導・キャリア教育
第 13 回	生徒一人一人の発達と課題によりそう進路指導・キャリア教育
第 14 回	学校段階間の接続をふまえた進路指導・キャリア教育の推進
第 15 回	まとめ：生徒指導と進路指導・キャリア教育の要点

2. 授業評価・授業研究の内容

授業評価は、前期・後期ともに小レポート 50%、期末課題 50%で行った。小レポートは、その日の授業内容に関して受講生にテーマを課し、400～800 字程度で記述をしてもらい、Moodle を通じて提出をしてもらった。また、

小レポートに加え、授業内容等に関する質問がある際には、別に記述するよう指示した。

しかしながら、前期第 5 回目に授業コンサルテーションを実施し、学生からの授業へのコメントや改善点等を募る中で、授業への質問等は授業内にコメントシートへの記入してもらい、小レポートは課題として引き続き Moodle 上で提出してもらう形とした。小レポートの一部及び質問に関しては、次の授業動画の冒頭において紹介・回答し、受講生に対してフィードバックすることを心掛けた。

また、本授業では LINE のオープンチャット機能を試行的に用いて、学生の意見収集を行った。具体的な活用場面としては、各授業において、何らかのテーマに関して、授業冒頭に、学生自身が抱いているイメージや意見を集約する際に用いた。例えば「生徒指導」や「キャリア教育」に対するイメージや既有知識を問うものや、「体罰は絶対に不要か、場合によっては必要だと思うか」といった学生自身の考えや意見を問うものなどが挙げられる。前者に関しては、学生自身が抱く偏ったイメージと、実際の生徒指導やキャリア教育の理念、目的の違いについて説明する際の導

入として活用している。後者は、「体罰はしてはいけない」という規範的な議論がある中で、50～100名の教員を目指すものの中にも、「どんな場合でも絶対に不要」だと考える学生や、「過度でなければよいと思う」「言葉での指導だけでは変わらない」と考える学生がいるなど、考え方や価値観にはグラデーションがあることを認識できる素材として活用している。学生からは、「LINEを使ってみんなで見聞交換をするという活動があったが、ある一つの話題に対して様々な意見が飛び交うのは自分の考えをさらによいものへと昇華できるため、学びが深まった」「LINEを用いた話し合い・意見の交換は気軽に意見を出しやすくとても良い」「LINEを使ってみんなの意見を投稿するのが、聞くだけでなく意見を可視化できて興味深い」といった声が挙げられた。他方、「せっかくLINEで一気に意見を集めるなら、もう少し一つ一つに焦点を当ててもいいと思う」「LINEのグループチャットで質問と関係のないことを言っていたり、ユーザー名が変な人が少数いたりするのが気になる」など、題材の選定や、匿名性ならではの課題も浮き彫りになった。これらの課題については、次

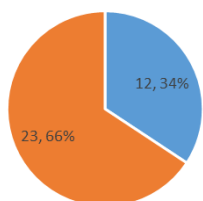
時の授業から改善を行った。遠隔非同期型のため、学生同士で交流することは困難であったが、毎時フィードバックを行ったことで、「質問対応なども講義の時間をかなり使ってくださっていたり、その質問が、自分も同じく疑問に思っていることが多く取り上げられていたので、すごくためになった。」「授業での毎回の課題は、その回に扱った内容を基に、具体的な教育場面について考える内容が多く、授業内容の理解を深めることができた。」といった声が受講生から得られた。

授業全体に関する学生からのコメントとして、「毎回講義の目的やねらいが明確で、学びや気づきを得やすい」「授業後のレポートに対して、次の授業でフィードバックをもらったので意欲が高まった」「積極的に意見交換ができ機会をたくさん設けていただいております、異なる考え方に触れてさらに深く考えることや視点を変えた見方ができた」といった声が得られた。

最後に、本授業で実施したアンケート結果を以下に示す。なお、前期では遠隔非同期型ということも影響し、十分な回答数が得られ

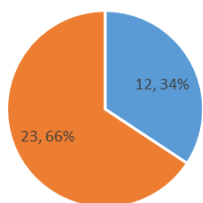
なかったため、後期に実施したアンケート結果を示すこととする。回答総数は 35 名で、有効回答数は 35 名である。質問内容は、本授業

知識・理解:教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。



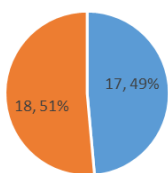
■とてもそう思う ■ある程度そう思う

技能:教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。



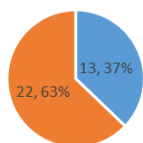
■とてもそう思う ■ある程度そう思う

思考・判断・表現:教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。



■とてもそう思う ■ある程度そう思う

興味・関心・意欲、態度:教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。



■とてもそう思う ■ある程度そう思う

を通して教育学部ディプロマ・ポリシー（以下、DP）に対応した資質・能力をどの程度習得できたかを問うものである。回答は 4 件法（1:とてもそう思う、2:ある程度そう思う、3:あまりそう思わない、4:授業の目標・内容がこの DP とは無関係である）でたずねた。

上記の結果からは、どの項目においても、9 割以上の受講生が一定程度の資質・能力が身につけていることが示される。また、「この授業で出された課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか」という質問に対しては、平均して約 1.2 時間、「この授業で出された課題や予習・復習をおこなうこと以外の理由で、この授業に関連して時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか」という質問に対しては、平均約 0.7 時間であった。これらの結果から、授業内外での学習時間も適切に確保できていたと考えられる。

今後は、本年度に行った授業実践をもとに授業研究を継続し、より学びを深化していくための内容の精選や授業方法を改善していくことが課題となる。